



双塔

カトリック新潟教会

2015年 11月
No. 330

楽しく学ぶ

主任司祭 ラウール・バラデス

今年の9月の半ばに、イスラエルに行ってきました。少し暑いほど穏やかな天気にも恵まれて、ガリラヤとエルサレムを巡って楽しみました。幸いに、最年長の84歳の方も含めて、一緒にいたメキシコの仲間の中に病人が出なくて助かりました。

聖地への巡礼は始めてではありませんが、今までよりその魅力を強く感じました。イエス様が通った道を歩くこと、彼が見た風景を目に焼き付けることだけで聖書を親しく感じ、より深く知ることができました。

今回のガイドさんはユダヤの方でしたのでモーセの律法、ユダヤ教の仕来りについての話しがよく出てきました。しかも、彼のジョークのセンスは見事でした。

ガイドさんはオリーブ山の展望台に皆を集めて突然、「どうしてイエスは捕まえられたのでしょうか？」と質問をしました。グループの中に私より真面目な神父さんがいて、一生懸命に答え始めましたが、ガイドさんは神父さんの話を途中で制して言いました。「神父さん、ご説教は別の日にお願いします。バスが待っているのです、私が教えてあげましょう。」そして、笑いながら言いました。

「イエスはキリスト教徒ではないから、捕まえられたんだよ」

「まったく！この人はキリスト教をバカにしている」と思った人もいましたが、実は、ガイドさんはまともな話しをしてくれたのです。

イエスとその弟子が神殿を出てからゲッセマネの園に泊まりに行った理由は、祝日にゆるされていた歩く距離を守るためでした。イエスはその掟だけを破れば、いつも通りベタニアまで泊まりに行き、エルサレムの群衆もベタニアまで捕らえに行くことができなかつたはずでした。

この話しは、歴史的な根拠があるかどうか私には分かりませんが、何となく納得できる話しでしょうね。

ある本で読んだ次の言葉が領けます。

—— 笑いは世界を結ぶ唯一の共通語なのかもしれない。それに、笑うことはなんともいっても楽しい。ハッハッハと笑いながら、知性の剣はジョークの砥石で磨かれる。 ——



■ 新しい『ローマ・ミサ典礼書の総則』に基づく変更箇所についての講話

----- 9月26日(土) 13:30 ~ 15:30 -----

典礼はすべて定められた儀式書に則って挙行されるが、儀式書の冒頭には必ず「総則」が置かれ、典礼ごとの決まり事が記されている。ミサは『ローマ・ミサ典礼書の総則』に基づいて行われるもので、第二バチカン公会議後51年目に際し、“はき違い”も見られたことから、この「総則」が改訂されて、待降節第1主日(11月29日)から実施される。実施に向け、南雲正晴師(日本カトリック典礼委員会委員、フランシスコ会)の講話が行われた。聖堂には、新潟市内の教会をはじめ教区内各地の教会などから約60名が参加した。

講話では、ミサ中の参加者の姿勢について「共通の姿勢を守ることによって、集まったすべての人の一致が目に見えるしるしとして表される」とし、「ミサ中の動作は立つことと座ることのふたつの動作に統一される」と説明。パンとぶどう酒の聖別のときの会衆の姿勢など、時間が足りないくらいのお話であった。

なお、10月18日(日)のミサ後に、主任司祭から変更箇所の指導が行われた。

※ミサをはじめ、典礼について改めて見直したい方には、9月から開講(毎月第二土曜日)の「知ってるつもり?! ~典礼のしるし、ことば、動作~」がオススメです!

■ 第19回カトリック新潟教区信徒大会 (山形県寒河江市)

----- 10月10日(土)、11日(日) -----

会場となった山形県寒河江市の「ホテルシンフォニーアネックス」には200名ほどが参集、新潟教会からはラウール神父様ほか8名が参加した。

初日は受付・開会宣言に続き菊地司教様の講話でスタート。12月8日に開幕する「いつくしみの特別聖年」にも触れながら、大会テーマとなっている教皇フランシスコの使徒的勧告『福音の喜び』について改めて解説された。その中でも新潟教区の現状について「統計では信者総数、受洗者数(幼児洗礼含む)は減少傾向にあり、少子高齢化も相まって、どこでも縮小傾向の話題になる。しかし成人の受洗者数を見ると、過去30年、毎年ほぼ70名前後の方々が教会に加わってくださっている。むしろ大切なのは、教会内の人たちに向けての福音宣教である」と強調された。

その後、あらかじめ決められた15グループに分かれての分かち合い。千原神父様(山形教会主任、イエズス・マリアの聖心会)による説明の後、『福音の喜び』第5項に導かれて分かち合いを行った。

大会二日目は朝の祈り、全体の分かち合いに続いてミサ。このミサは教区大会のミサであるとともに、『教会の宣教活動に関する教令』発布50周年記念の意向で捧げられた。

ミサに引き続き、新潟教区信徒使徒職協議会総会に移り、役員人事等が承認された。

次回教区大会は2018年に、秋田県で開催。また、翌2019年は、米沢のルイス甘糟右衛門と52名の福者殉教者が列福されて10年になるのを記念して、盛大な殉教者顕彰祭が計画されている。



みんなの広場

『いつくしみの聖年』は、2015年12月8日「無原罪の聖母」から2016年11月20日「王であるキリスト」の祭日までです。



左のロゴは、よい羊飼いがその人の人生を変えるほどの愛を込めて触れていることが伝わるデザインです。

アーモンド形の後光の同心楕円は、外に向かって明るく彩色され、人間を罪と死の闇から連れ出そうとする動きを感じさせます。ただし、濃い色もつ深みは、すべてをゆるして下さる御父の愛の深さのはかりしれなさも表しています。

また、「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」とイエス様のことばに基づいて制作されたこのロゴのモットーは、耳が痛くなるほど、皆に強く問いかけ、愛といつくしみを生きるよう促します。

※詳細は、カトリック中央協議会のホームページをご覧ください。

<http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/feature/francis/msg0245.htm>

